

新年のご挨拶

全労生議長 落合清四
(UIゼンセン同盟会長)

新年明けましておめでとうございます。

昨年は、世界的な好景気から一転し、米国発の世界的金融不安による景気の急減速、原油価格の乱高下、アメリカ大統領選など、さまざまな「変」が見られる年でした。特に「未曾有」といわれる程の金融危機の影響は大きく、日本においても、急激な内外需要の収縮は、円高・株安と相俟って、産業・企業業績の大幅な悪化を招き、雇用・労働環境を一変させ、雇用不安が再び社会問題となってきています。

生産性運動を推進するにあたり、雇用の安定はきわめて重要な要素です。不確実性が一層増す中で、企業・産業・国が生産性を高め持続的発展を図るには、まず何よりも、働く者が安心して働くことのできる環境づくり、すなわち雇用に対する安心感を醸成することが必要です。現在のような状況下では、我われの得意とする信頼をベースとしたチームワークの発揮、現場力・総合力の強化による生産性向上を実現することは難しいと言わざるを得ません。労働組合は全ての働く者の代表として、組合員のみならずさまざまな人の意見を聴き、雇用の安定・確保に向けて、企業・産業・国のあらゆるレベルで協議を行い、短期・中長期の対策を立て、確実に実行するため全力を傾注しなければなりません。

労働組合が合理化と生産性運動は異なることを十分に確認した上で生産性運動に参加することを決定し、現在の全労生である労働組合生産性企画実践委員会を設立してから、本年で50周年という節目を迎えます。50年後の今日、取り巻く経済・社会環境を踏まえ、改めて、生産性運動の重要性と生産性3原則の意義を再確認し、生産性運動を希薄化させない取り組みを関係者に要請するとともに、全労生が自らの活動を充実させていく決意を込めて、6月には、50周年宣言の発表や記念シンポジウムを開催します。

昨年からの暗い雰囲気や閉塞感を払拭し、今年を明るい1年にするためには、「昨日より今日、明日は今日より」という生産性の精神がますます重要となります。本年も生産性運動を労働組合の立場から推進する全労生の活動に対し、一層のご指導、ご支援をお願い申し上げます。